悪魔と殺人貴

winer

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
悪魔と殺人貴

【Ｎコード】
Ｎ０２６９Ｈ

【作者名】
ｗｉｎｅｒ

【あらすじ】
とある何でも屋に依頼が入る「この男を消してちょうだい・・・名前は七夜志貴・・・」店主の男はやれやれと立ち上がり依頼に応じる当の七夜は殺しの無い夜を退屈に過ごしていた・・とそこに・・・

では　どうぞ

とある何でも屋

ギィィィィ

扉が開かれる

「ここが何でも仕事を請け負ってくれる店ね」

「・・・・・」

店主らしき男は黙って雑誌を読んでいる

「ねぇ　あなたいい男じゃないの　私　アルトルージュ　よろしく」

アルトルージュはそう言って男に近づく

男がやっと口を開く

「シャワーなら自由に使いな　トイレも奥にある」

「もう　釣れないわね　でも　気に入ったわ」

アルトルージュは一枚の写真を出しそれを机に置く

「ねぇ　この人を消してくれない？　名前は七夜　志貴　報酬は弾むわよ」

「・・・・」

「ねぇ　受けてくれるの？　くれないの？」

「俺の受ける仕事は全部R指定だ　人間相手は興味ない」

「あら　ただの人間じゃないのよ　悪魔と対等に戦える男」

「・・・・合言葉は？」

「ジャックボット　でいいかしら？」

男はやれやれと立ち上がる

「俺を動かす分　それなりの報酬はいるぞ」

「もちろん　あなたの働き　期待するわ（フフフフ　この男の強さを確かめて強ければ死徒にして私の配下にしてやるわ　フフフ）

その頃　当の七夜というと

「あぁ　今宵はいい月だ　こんな日は何かありそうだな・・・ん？」

一瞬　殺気を感じた

「こりゃイベントがあるな　今宵は暇じゃなさそうだ」

ズダダダダ

「おおっと」

何処かから放たれた銃弾が七夜の足元でかする

「なんだ　子供がこんな夜に一人で歩いてちゃ駄目だな
早くおウチに帰りな　ママに叱られるぜ　お尻ペンペンだ」
「誰だ？　アンタ？」
「おいおい　最近の子供は口がわりぃな　ちょっとお仕置きしねぇ
とな」

と言って男は二丁拳銃を構えて撃ちまくる
ズダダダダダダ
が　しかし七夜は既に男の真上にいた

「隙だらけだ！」

と言って七夜が短刀で切ろうとした瞬間
二丁拳銃の内一丁が真上に向けられる

「な・・・」

バキュイン
「くっ」

回避行動を取る七夜だったが銃弾が肩をかすめる

「ちっ」

着地をしようとした七夜に男の足蹴りが直撃する

「ぐはっ」

仰向けに吹っ飛ばされ倒れる七夜

「どうした坊や　おねむの時間か？」

「・・・やってくれるな」

七夜は男と距離を取り短刀を構えなおす　そして

「・・・我は面影糸を巣と張る蜘蛛・・・ようこそこの素晴らしき惨殺空間へ」

異様な殺気を放つ七夜　が男は全く動じない

男は二丁拳銃を構え　撃つ

ズダダダダダ

「その弾道　既に見切った！」

弾の一発一発を七夜は確実に避けていく　そして

「極死・・・」

七夜が短刀を投げると同時に跳ぶ

「七夜・・・」

男は七夜の直接攻撃は避けたが先に投げられた短刀が心臓に刺さる

「オレの攻撃を見切ったとしても　もう一つの刃がアンタを襲う・・・結局アンタに逃げ場はなかった　残念だなアンタの人生はこ・・・」

七夜は驚いた
男が心臓に短刀が刺さった状態で動いている
「（馬鹿な　確実に仕留めたはず！）」
「・・・やれやれ　随分残酷な事をしてくれるもんだ　どうやらお前のことを甘く見ていたようだ・・・」
「き　貴様　何故生きている？」
「どうした坊や？　来いよ」
挑発
「・・・（どう動けばいい　どうすればアイツを止められる？　考えろ・・・）」
「どうした坊や　ギブアップか？」
「閃走・水月」
素早い動きで男の懐に入る　そして！
「閃鞘・七夜」
ガキィン
鈍い音が響く
「何！？」
「銃だけかと思ったか？　甘いな坊や」
シャッ
風を切るような音
七夜には何が起こったのか・・・分からなかった

「ぐがぁっ」
「闇魔(やまと)刀を使わせるとは　やるな　だがやっぱりツメが甘かったな？　そうだろ？坊や」
しかし七夜はなおも起き上がる
「やれやれしつこい坊やだ　が　これで　おやすみだ」
ドスッ
「がっ・・・・」
男は七夜に止めを刺した・・・はずだった
男は驚いた先程まで足元に転がっていたはずの人間がいないのだ
「ちっ　まさか　アイツまだ！？」
そう七夜は男の頭上にいた
間一髪避けることに成功した男だったが　回避による隙が発生しそしてそれを七夜は決して見逃さなかった
「閃鞘・七夜」
ザンッ

「閃鞘・八穿」

ザッ

「閃鞘・六兎」

そして間髪入れず男を蹴り上げる

「閃鞘・八点衝」

七夜は素早く地上に降り構える　男も受身を取ろうとするが　間に合わず

ザザザザザザザザザザザザザン

しかしまだ攻撃は続く

七夜の華麗な連続攻撃に　怯み始める男

そして七夜はその隙を逃さず男の首を掴む

「閃鞘・一風」

男の脳髄を地面に叩きつける

が男は笑っていた

「いい攻撃だ　坊や　さて　そろそろ遊びは終わりだ　気付いてるだろ？　アレに」

「あぁ　あれだけ妖気を放ってたら　気付かない訳がないさ」

二人は気付いていた　この戦いは奴に見られていると

「いるんだろ？　出て来い　アルトルージュ」

木の茂みから突然　影の刃が飛んできた

二人は体を反らして避ける

「残念　二人とも死なないなんて　仕方ないわ　私が殺してあげる」

「俺はつくづく女運がないようだ　坊や　受け取れ」

七夜は拳銃一丁を受け取る

「なぁ　坊や　決め台詞って知ってるか？」

「やれやれ」

「死になさい！！」

二人は銃を重ね　その台詞を言った

「ジャックボット！！」

二人の重ねられた銃から弾丸が放たれる

「ギャァァァァァ！！」

「お嬢さん　そんな声上げて　せっかくの美人面が台無しだぜ」

「・・・許さないわよ・・・覚えてなさい」

と　背中を向ける・・・・フリをして

「隙あり！！」

影のナイフを男に投げつける　しかし男はあっさりとそれを避けた
「しつこい女は嫌いだぜ」
ザンッ
男は背中の剣でアルトルージュを切り捨てた
そのままアルトルージュは倒れこみ　そのまま闇に溶けるように消えた

「なぁ坊や」
「何だ」
「もう少し遊ぶか？」
「いや　また今度にしよう　ところでアンタ　名前は？」
「ダンテ　じゃあな（七夜）　また縁があったら会おう」
「お互い生きてたらな」

何でも屋　デビル　メイ　クライ
ジリリリリン
電話の音が鳴り響く
ダンテはだるそうに受話器を取る
「デビル　メイ　クライ　・・・・合言葉は？・・・・報酬は・・・・
それじゃピザ三日分じゃないか！？　断る・・・・何　報酬を増やすだと？
分かった」

「また仕事の依頼？」

ロケットランチャーを背負った女が寄ってくる

「あぁ」

「助けは必要？」

「好きにしろ」

「私が助けた場合　報酬は借金へ当てられるわ」

「・・・おい」

「当たり前でしょ」

ギィィィ

外からスタイルの良い（いわゆるセクシー）別の女が入ってくる

「じゃ　私の助けは？」

「必要ないね」

「ちょっとアンタ　盗み聞き！？」

ロケラン女がセクシー女にくってかかる

「あら　いいじゃないの　私はダンテの相棒（パートナー）よ」

「相棒相棒って正確には　元相棒でしょうが」

「うるさいわね　ヤキモチ？」

「うるさい！　ダンテ　あなたはどっちがいいの？　私とこの女」

「（どっちでもいい）・・・・そろそろ行くぞ」

廃ビル

そこは悪魔達の巣となっていた

そしてそこに

一人の男と二人の女が現れた

「雑魚がいっぱい」

「私たちを歓迎してるのかしら」

たくさんの群れの中の何匹かが襲ってきた

バキュン

「楽しいR指定パーティの始まりだ　派手にいくぜ！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0269h/

悪魔と殺人貴

2010年10月11日02時27分発行